

近森オルソリハビリテーション病院 医療相談室

室長 川澤 あゆみ

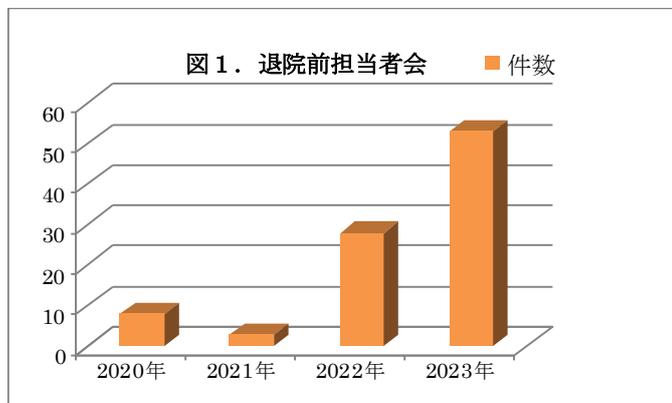
○医療相談室体制について

2023年は常勤ソーシャルワーカー（以下 SW）1名＋非常勤 SW1名の体制で業務を行った。

○業務について

医療相談室では例年同様に入院ケースを中心に業務を行った。2023年の相談件数（延べ人数）は、入院関連 2525 件、外来関連・その他 441 件であった。相談対象は患者本人 1447 件、家族 686 件、関係機関 1879 件、その他 2 件、対応方法は面接 1727 件、電話 2096 件、訪問・その他 121 件であった。

2023年に当院へ新たに入院した患者 563 名のうち、SW の介入が必要であった患者は 206 名であった。SW が介入した 206 名の退院先は、自宅退院 154 名、施設入所 35 名、医療機関への転院 18 名（うち 13 名は急性期病院へ転院）であった。また、206 名のうち要支援・要介護認定をもつ患者は 155 名、要介護認定申請中に退院した患者は 31 名、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等と連携した患者は 146 名、サービス調整を行った患者は 125 名であった。感染対策により 2023 年も家族や関係機関の病棟への立入りは制限されたが、病棟以外の場で患者や当院スタッフとケアマネージャーらが顔を合わせて情報交換をおこなえるよう取り組んだ結果、2020 年 8 件・2021 年 3 件・2022 年 28 件であった退院前担当者の開催件数は、2023 年は 53 件と大きく伸びた（図 1）。また、2022 年は実施できていなかった患者宅の訪問は、必要な感染予防策を講じて 2023 年 11 月から再開している。



2023年の大きな変化として、11月1日には回復期リハビリテーション病床であった 54 ベッドが地域包括ケア病床へ転換された。これに伴い、これまでの整形外科系疾患の治療・リハビリを受ける患者に加え、内科系疾患等の多様な疾患への対応が求められるようになった。また、病床機能転換により患者が入院できる期間も短縮され、よりスピーディーな退院支援が必要となってきた。

2022年春までは SW3 名体制だったところを当面は現在の 1.5 名体制で業務をおこなうにあたり、病院の変化に対応しつつ業務整理に注力し、必要ところへソーシャルワーク支援が届くよう取り組んでいきたい。